

少し前の話になりますが、昨年11月20日 商工会・長久手めぐり研究会主催の「上郷三社・三寺めぐり」に参加してきました。福祉の家に集合し、熊野社・永見寺・宗延寺・神明社・多度社・前熊寺をめぐる長久手東部の歴史散歩です。名東区から長久手に移り住み、未来形の長久手しか見てこなかった私にとってはタイムマシンに乗った気分のままにわくわくの小さな旅となりました。



宗延寺
紅葉と落ち葉

大草・北熊・前熊の三つの村が明治39年に長久手村と合併し今の長久手市がありますが、この東部地域は細い路地の中にいまだに古い家屋が残りつつも、都会から戻ってきた新しい世代の住居も混在する不思議な風を感じる地域です。

熊野社と隣り合わせの永見寺には、戦争から亡骸となって戻ってきた方々が故郷を見下ろせるよう高台にお墓が連なっていて、同じ目線で佇んでみると当時の方々の故郷への想いがよみがえり、胸にこみあげるものがありました。

紅葉と落ち葉の絨毯

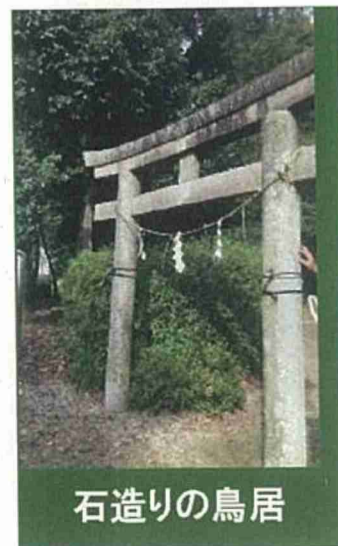
少し歩いた先に見えてきた宗延寺の境内はそれは見事な紅葉で、入口は銀杏の落ち葉の絨毯。遠くまで紅葉狩りに行かなくても市内にこんなすてきな場所があるなんて！とメンバーで感激。そして、ここからしばらく下って畦道を通ると曲がりくねった細い路地に入っていきます。新旧の家屋を楽しみながら歩いていくと一角に小さな常夜灯が目にとまりました。

常夜灯をともし風習

この常夜灯は、建立当時から現在まで当番を決めて毎晩灯籠に火をともしているそうです。地域コミュニティの維持復活の手段として、「火の用心」や「家内安全」の気持ちを込めて代々伝えられた風習が残っているんですね。

常夜灯の古さに住民の皆さんのチームワークを感じながら歩いてきた先に、大きな建築中のIKEAが現れました。今年10月オープンに向け急ピッチで進む工事の陰で失っているものもあるようで、貴重なメダカが姿を見せなくなったこともどうやら工事の影響があるらしく残念なことです。

未来にはばかり目を向けている私たちに警鐘をならしているのではないかしら、と考えながらたどり着いた多度社には1661年に建立された石造りの鳥居があり、毎年7月第2日曜日に、たくさんの提灯をかざした市内で唯一の山車が引き出され夕刻から「天王まつり」が開催されます。



石造りの鳥居

豊かな文化を育む

最後の前熊寺を後にして、リニモ「公園西」駅付近から整備されている香流川左岸の緑道を歩いてゴールのござらっせに着きました。

この緑道は春には桜やユキヤナギ、夏には蛍、冬には鴨などが見られ、歩いているとさまざまな花々が心を和ませてくれます。

便利さにはばかり注目されつつある長久手ですが、こんなに豊かな文化を育んできた土地であること、を次の世代まできちんと伝えて守っていく必要があると実感した、気分は「Discover Nagakute!」のおさんぽ旅でした。